

三浦半島産ムカゴサイシンについて

星 寛 治 ・ 勝 山 輝 男

Kanji HOSHI & Teruo KATSUYAMA: *Nervilia nipponica*

(Orchidaceae) Faund from Miura Peninsula

はじめに

ムカゴサイシン *Nervilia nipponica* MAKINO は常緑樹林内の腐植に生える小型の地生ランで、関東南部以南の本州太平洋側、四国、九州、琉球に稀産する。比較的珍しい植物であるため、その形態や生態に関する詳細な報告は少なく、前川 (1971)、里見 (1956)、尾川 (1969)、澤 (1979) など数えるほどである。今回、筆者の一人星寛治が三浦半島で発見し、2年間にわたりその開花、結実、展葉を観察したので報告する。

これまでの記録

飯沼慾斎「草木図説」に図示されており、江戸時代からその存在が知られていた。しかし、近代植物学が導入された明治以降は採集記録がなく、幻の植物とされていた。牧野 (1889, 1902) は「草木図説」の図をもとにして、この植物にマレーシアからインドネシアに産する *N. punctata* (BLUME) SCHLECHTER をあてた。後に牧野 (1909) はこれとは別種と考え *N. nipponica* MAKINO と命名した。

1927年になってはじめて東京の目黒林業試験場構内で採集され話題となった (牧野, 1927)。その後、鈴木 (1955) は伊豆大島で、本田他 (1962) は東京都浅川実験林内での生育を報告している。奥山 (1965) はこの他に和歌山・大隅半島・種子島を、前川 (1971) は八丈島を産地としてあげている。また、静岡県植物誌 (杉本, 1984)、大分県植物誌 (1989)、鹿児島県植物目録 (初島, 1986)、北琉球の植物 (初島, 1991)、琉球植物誌 (初島, 1975) に記録があり、澤 (1979) は高知県から詳細な報告を出している。我が国の保護上重要な植物種の現状 (1989) によると、その他に宮崎県の記録がある。

今回の三浦半島でのムカゴサイシンの発見は、神奈

川県新産で、東京周辺では目黒、浅川に続いて3例目である。目黒、浅川ではすでに絶滅しているので、三浦半島が現存するものでは北限の分布となる。尚、伊豆大島では少なくとも5年前には生育していたという (斎藤私信)。

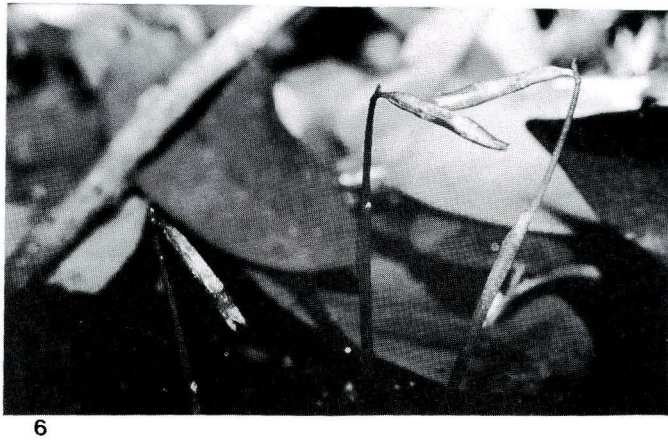
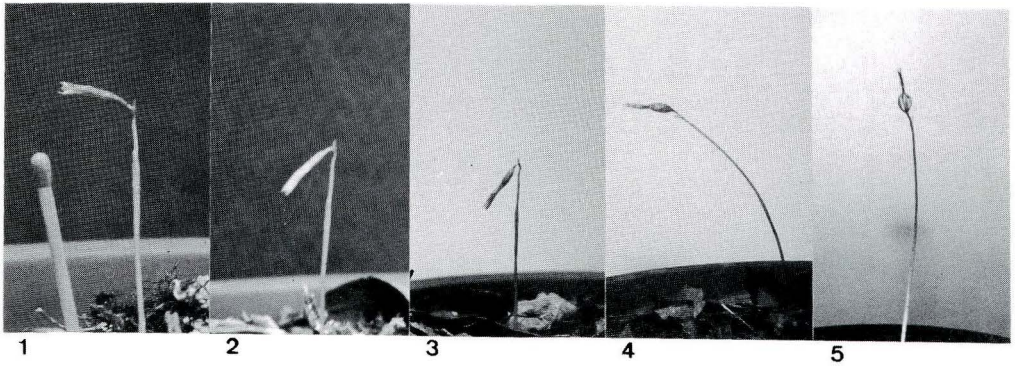
前川 (1971) は日本産のものはマレー半島やスマトラに分布する *N. punctata* とほとんど差がなく、伊豆大島のように新しい島にも自生があることから、*N. punctata* の変種として位置づけ、var. *nipponica* (comb. nud.) とした。澤 (1979) は葉が5脈で小さいことと、唇弁が他の花被片よりもやや長い点が *N. punctata* とは異なるので *N. nipponica* を採用している。*N. punctata* かどうかは今後の比較研究が必要と思われるが、最近の多くの植物誌では *N. nipponica* MAKINO を採用している。

発見の経緯

1989年7月22日、横須賀市内のマテバシイ林で落葉の間にムカゴサイシンらしい艶のある特異な一枚葉が出ているのを発見した。よく周囲を見回すと、更に10数個の葉が点々として出ているのが見られた。そこは三浦半島で普通に見られるマテバシイ林で、林床には落葉が堆積し、下草はほとんど見られない。すぐ横に山道が通り、その外側にはミカン畑が開けており、ごく人間臭い感じの場所である。ムカゴサイシンは6月頃に開花し、花が消えた後に葉が展開する。そこで2~3個体を持ち帰り、鉢に植えて花を確認することにした。

鉢植による観察

1990年5月22日、鉢植にしておいたものに花茎が1本立っているのを見つけた。花茎は高さ5.5 cm、つま楊子よりもやや太い位で、全体にくすんだ褐色をして



1～5：1990年鉢植にしておいたものが開花（1：5月22日，2：5月28日，3：6月3日，4：6月12日，5：6月17日），6：現地での開花状況（1991年6月4日），7：花茎が消えた後に葉が展開（1991年7月7日），8：葉の下の地下茎から枝分かれして地下茎を伸ばしている（1991年7月7日）。

いる。花は真横またはやや斜上し、長さ1.3cm、先端がわずかに開き、唇弁には紅紫色の斑点がある(写真1)。5月24日には花被の先端の開きが大きくなる。5月28日には花被が閉じ花は斜め下向きになる(写真2)。澤(1979)によるとムカゴサイシンの花は受粉しない場合はいつまでも花被を閉じずに斜め上向きに開花し続け、受粉すると花被が閉じ花梗は湾曲して花は下向きになるという。5月24日には花被が開いていたので、この4日の間に受粉したものと考えられる。1週間後の6月3日にはもう子房がふくらみ始めている(写真3)。6月12日になると、茎は高さ9.5cmまで伸び、さく果は上を向く(写真4)。6月17日には茎は高さ11cmになり、さく果はまっすぐに上を向き、すでに縦に4つに裂開していた(写真5)。その後、茎は元の部分から折れて倒れ、数日後には消えてしまった。残念ながら葉の展開は見られず、この個体は枯れてしまった。

現地での観察

鉢植えのものに花が出たので5月27日に現地の様子を見に行く。1ヶ所に3本、少し離れた所に2本の花茎を発見できた。色は鉢植えのものよりもやや濃く、枯葉と同色である。花は斜め上を向き、花被はまだ開いていなかった。6月3日に再度見に行くと、花被の先端が少し開いていた。7月1日には花茎はすでに消え、新葉が3~4個見られた。7月29日には葉の元気がなくなり、8月25日になると葉が残っていたのは1本だけであった。

1991年5月26日、再び現地を見に行ったが、花茎はまだ出ていなかった。6月4日、4本の花茎を発見した。花被の先端は開いていなかったが、花がやや下向きになっているので、すでに受粉が済んでいると思われる(写真6)。7月7日、花茎は消え、葉が3個見られた(写真7)。8月11日、前回見た葉は大きく育っており、その他に12~13個の小さい葉が見られた。

1989年には葉の時期に10数個体を確認できた。しかし、1990年には数個の葉が確認されたにすぎなかった。ところが、1991年には再び10数個体が確認された。1990年に確認された葉の数が少なかった原因はよくわからないが、この年の夏は晴天が続き、林床が乾燥していたためかもしれない。

ムカゴサイシンは葉がつく茎の地下部から枝分かれして地下茎を長く伸ばし、その先に新しい球茎を作り栄養繁殖する(写真8)。また、球茎に直接ごく短い

地下茎が出て、その先に小球茎をつくり、栄養繁殖することも報告されている(里見, 1956)。栄養繁殖により、着実に個体数を維持しているようだ。しかし、最近林の東側が伐採されたので環境の変化が心配される。目立たない植物なので、採取されることはないであろうが、きわめて珍しい植物なので、大切に見守りたい。

伊豆大島のムカゴサイシンについて東京の斎藤常夫氏に最近の情報をいただいた。また、神奈川県植物誌調査会の小崎昭則氏、県立博物館高橋秀男学芸部長には文献についてお世話になった。厚く御礼申し上げます。

文 献

- 初島住彦, 1975. 琉球植物誌(追加・訂正). 3+7+1002pp., pls. 16+27. 沖縄生物教育研究会, 那覇.
- 初島住彦編, 1986. 改訂鹿児島県植物目録. 2+290pp. 鹿児島植物同好会, 鹿児島.
- 本田正次・九里聡雄・鈴木重隆, 1962. 浅川流域の植物. 東京都文化財調査報告書, (12): 497-529.
- 勝山輝男, 1990. 植物誌発刊後に記録された植物(4). FLORA KANAGAWA, (29): 294.
- 前川文夫, 1971. 原色日本のラン. 12+495pp. 誠文堂新光社, 東京.
- 牧野富太郎, 1889. むかごさいしん. 植物学雑誌, 3: 448.
- MAKINO T., 1902. Bot. Mag. Tokyo. 16: 199.
- MAKINO T., 1909. Bot. Mag. Tokyo. 23: 138.
- 牧野富太郎, 1927. 植物研究雑誌, 4(5): pl. 1.
- 正宗岐敬, 1972. 日本産蘭科植物分布図(四十六). 北陸の植物, 20: 83.
- 尾川武雄, 1969. ムカゴサイシンの観察. 北陸の植物, 17: 104.
- 奥山春季, 1965. 東京から姿を消して30年~稀品ムカゴサイシンの分布~. 植物採集ニュース, (24): 9.
- 奥山春季, 1979. 片や50年ぶりに発見されたタシロラン, こちら50年たっても姿を見せぬムカゴサイシン. レポート日本の植物, (2): 14.
- 大分県植物誌刊行会, 1989. 新版大分県植物誌. 5+806pp., pls. 36. 大分.
- 小崎昭則, 1991. 神奈川県産の植物補遺(1). FLORA

KANAGAWA, (30): 305-319.

里見信生, 1956. ムカゴサイシンの地下茎. 北陸の植物, **5**: 102.

澤 完, 1979. 高知市産ムカゴサイシンについて, 高知の植物, (2): 87-94.

佐竹義輔他編, 日本の野生植物 草本 I. 15+305pp., pls. 208.

島袋敬一, 1990. 琉球列島維管束植物集覧. 8+794pp. ひるぎ社, 那覇.

杉本順一, 1984. 静岡県 植物誌. 5+4+814pp., pls.

4. 第一法規出版, 名古屋.

鈴木普二, 1955. ムカゴサイシンの新産地. 植物研究雑誌, **30**: 24.

我が国における保護上重要な植物種及び群落に関する研究委員会種分科会, 1989. 我が国における保護上重要な植物種の現状. 2+320pp. 日本自然保護協会, 東京.

(星 寛治: 東京都港区新橋 2-9-2・勝山輝男: 神奈川県立博物館)